

【様式2】 平成28年度組織目標(組織名: 水産試験場)

目標

番号	目標項目	目標設定の理由	目標値等(目標の内容) ※原則として定量的かつより成果を重視したものを設定	目標達成に向けての手段等	基本構想に係る 実施計画の 関連施策	総合戦略に係る 関連プロジェクト	担当所属
1	琵琶湖沿岸帯や内湖の水産資源の再生の場としての評価と活用技術の確立	かつて琵琶湖沿岸帯(南湖)や内湖はニゴロブナやホンモロコシの再生産の場として高い機能を有し、水産資源の増大に寄与していました。資源造成型栽培漁業の推進のためには、これらの場の機能評価と活用が必要です。	・過年度に放流したニゴロブナとホンモロコシの琵琶湖沿岸帯や内湖への回帰および産卵状況の把握	・両魚種の琵琶湖沿岸帯や内湖で産卵親魚の採集を行い、過年度標識放流魚の動向を把握するとともに、周辺の産卵状況から産卵環境の評価を行います。	4-1 琵琶湖環境の再生と継承	琵琶湖と人の共生でにぎわい創生プロジェクト	水産試験場
			・過年度に南湖に放流したニゴロブナとホンモロコシの回帰および産卵状況の把握	・南湖の放流場所を中心に来遊するニゴロブナやホンモロコシ親魚の採集調査やその産卵状況を調査するとともに、放流魚の追跡調査を行います。			
2	自然の生産力を活用したセタシジミ資源の回復技術の開発	かつて6,000トンほどあったシジミの漁獲量はH25年には64トンまでに落ち込んでいます。そこで北湖において、種苗放流ではなく自然の生産力を利用してセタシジミの資源を回復させる技術の開発が必要です。	・漁場への簡易構造物の設置によるセタシジミ生息環境の改善効果の把握	・実際の漁場に設置した簡易な構造物周辺に放流した稚貝等の定着・分散状況を把握します。 ・構造物設置による流速などの物理環境測定・餌環境の分析を行い、その環境改善状況を調査します。	4-1 琵琶湖環境の再生と継承	琵琶湖と人の共生でにぎわい創生プロジェクト	水産試験場
			・内湖等で垂下し肥育したセタシジミ親貝による増殖効果の把握と放流技術の検討	・西の湖で垂下した親貝の肥満状況、放流後の産卵状況の調査を行います。 ・親貝の適切な肥育場所、時期、垂下方法等の効率的な放流技術について検討します。			
3	南湖底質の栄養塩量の鉛直構造の把握	南湖の漁場環境回復のためには抜本的な水草の大量繁茂抑制策を立案し実施することが求められている。水草大量繁茂の原因の一部は、湖底に蓄積した豊富な栄養塩であるとされている。このため底質中の栄養塩の蓄積状況を把握することが繁茂抑制策を立案する上で重要である。	底質中の栄養塩量の鉛直構造を把握した定点数の目安: 12定点	採取したコアサンプルの栄養塩量を層別に分析・評価する。	4-1 琵琶湖環境の再生と継承	琵琶湖と人の共生でにぎわい創生プロジェクト	水産試験場

4	特産魚介類の養殖技術の確立	琵琶湖固有種のビワマスの特産養殖魚として普及するための技術開発とその指導が重要です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な脂質含量を持つ養殖ビワマス育成技術開発</li> <li>・ブランド化に必要な非破壊的脂質含量検査法の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼料の改良や給餌技術による肉質向上に取り組みます。</li> <li>・非破壊的な手法による脂質含量検査法を開発し、ブランド化のための基準値を設定します。</li> </ul>	<p>施策5-1滋賀の強みを活かした農林水産業振興と魅力ある農山漁村づくり</p> <p>施策5-2滋賀のブランド力向上と地産地消の推進</p>	琵琶湖と人の共生でにぎわい創生プロジェクト	水産試験場（醒井養鱒場）
5	アユ資源動向把握技術の開発	近年、アユ資源量が大きく変動しており、漁業者の不安が増大しています。漁獲の安定に向けた施策の実施には、アユ資源の迅速で精度の高い把握および減耗要因の把握や、資源加入状況がその後の漁獲に与える影響を予測する必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁獲による資源消費過程の解明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふ化日からその後の漁獲状況の予測するために、ふ化日と漁獲の関連を把握します。</li> <li>・主要河川で流下仔魚調査を実施し、ふ化仔魚の加入量を推定します。</li> </ul>	4-1 琵琶湖環境の再生と継承	琵琶湖と人の共生でにぎわい創生プロジェクト	水産試験場
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・アユ減耗要因の分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アユの減耗を引き起こす可能性が考えられる物理化学的要因と競合魚種について検討します。</li> </ul>			
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学計量魚群探知機を用いたアユの資源量の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学計量魚探機を用いてアユの資源尾数の推定と分布状況の把握を行い、漁獲状況等との関係を検討します。</li> <li>・科学計量魚探機では調査困難な沿岸の浅水域には小型調査船による通常の魚群探知機での調査や漁獲状況等から資源状況の把握を行います。</li> </ul>			
6	オオクチバスの「リバウンド」現象の原因解明と未成魚の駆除技術開発	電気ショッカーボートによってオオクチバス成魚の効率的な捕獲が可能になりましたが、駆除が進んだ水域ではリバウンド現象と呼ばれるオオクチバスの当歳魚（幼魚）の急増現象が起り、オオクチバスの持続的な低減の障壁となっています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オオクチバス「リバウンド」現象の原因解明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度事業で示された「共食い」と同現象の関係をより明確にするデータを収集します。</li> </ul>	4-1 琵琶湖環境の再生と継承	琵琶湖と人の共生でにぎわい創生プロジェクト	水産試験場
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・未成魚に特化した新たな効率的駆除技術の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水底の起伏や障害物を立体的に映し出す魚群探知機を活用した未成魚駆除技術の開発を試みます。</li> </ul>			
7	新たな外来魚の拡散防止および効率的駆除技術開発研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、チャネルキャットフィッシュやコクチバスの分布域拡大や生息量増加の兆候がみられます。このため、現状把握と生息域拡大防止のための効率的駆除技術の開発が急務です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャネルキャットフィッシュとコクチバスの生息状況把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繁殖場所や分布域拡大の可能性の高い水域において、生息状況を明らかにし、得られた捕獲に関する情報を駆除技術開発につなげます。</li> </ul>	4-1 琵琶湖環境の再生と継承	琵琶湖と人の共生でにぎわい創生プロジェクト	水産試験場
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャネルキャットフィッシュの生態的特性把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育実験や発信機を用いた行動探索により生態的特性に関する知見を集積し、駆除技術開発につなげます。</li> </ul>			

8	琵琶湖の水産生物生産力評価に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在来魚介類のにぎわい復活のためには、魚介類減少要因を餌の観点から取上げ、主な水生生物の現存量の試算とそれらの摂餌利用に関する知見の収集が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要魚介類の現存量推定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年に現存量推定手法を確立した主要魚介各種の現存量を最新データを加えて更新します。</li> </ul>	施策4-1 琵琶湖環境の再生と継承	琵琶湖と人の共生でにぎわい創生プロジェクト	水産試験場、琵琶湖環境科学センター
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系モデルによる餌-主要水産生物間の量的関係推定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の魚介類現存量を琵琶湖環境科学センターが推定した餌生物の現存量とともに生態系モデルに取り込み、餌生物と水産資源との関係について検討します。</li> </ul>			
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・餌生物実態調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育可能な魚介類について、動物プランクトンの捕食量やそれに基づく成長量、餌生物と水産資源との関係を飼育実験により明らかにします。</li> </ul>			